

# 第3回産業日本語研究会・シンポジウム デモ展示のご紹介

～特許明細書半自動生成システムPatentGenerator～

---

2012年2月29日



有限会社アイ・アール・ディー

代表取締役・弁理士 谷川英和

特許に関する活動の質・効率を上げるための種々の活動・研究

## 特許ライフサイクル

発明着想 発明完成 特許明細書作成 出願 中間処理 権利化 権利行使

構築

貢献

方法論

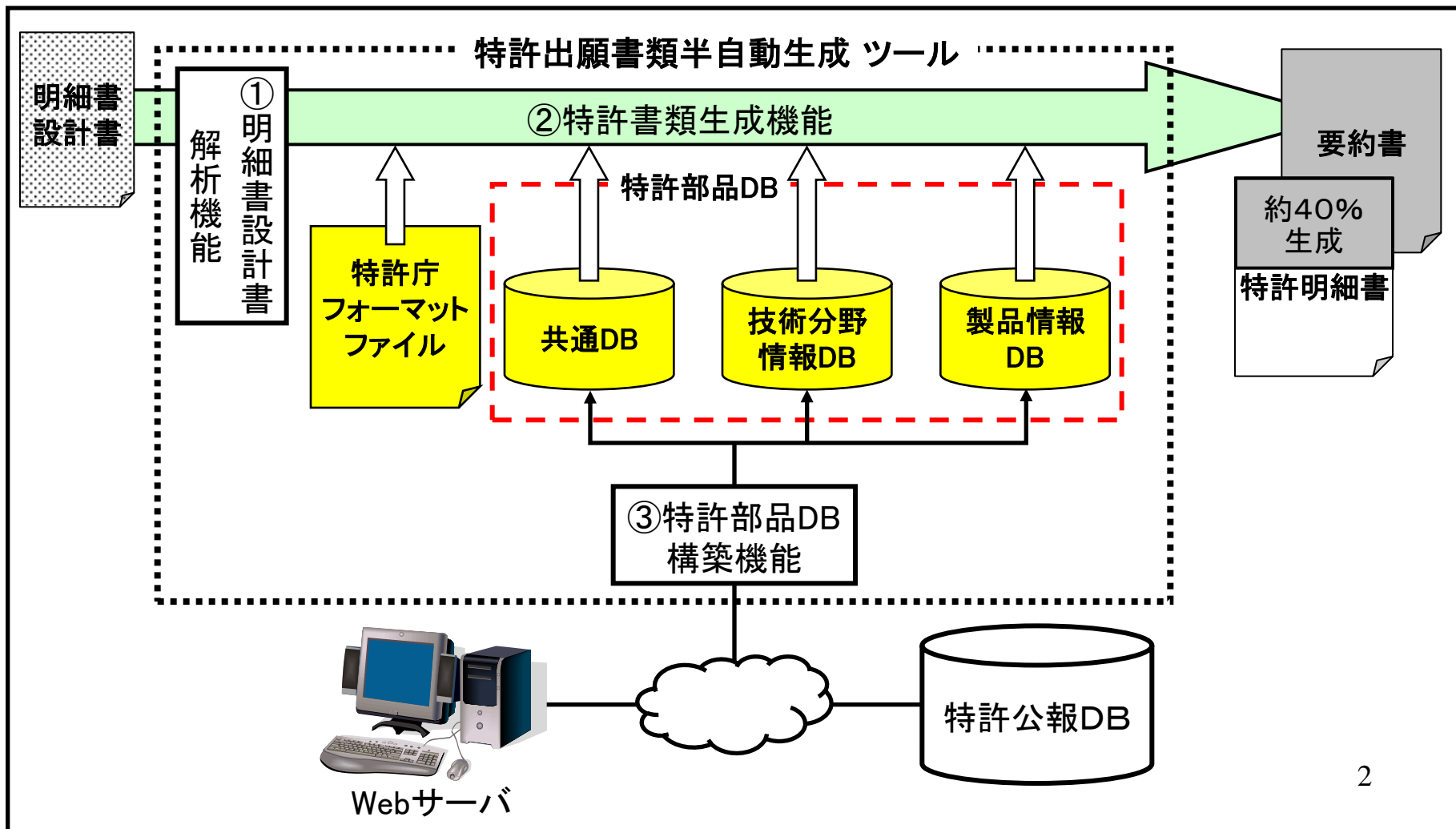


ツール



教育

弁理士のノウハウ、発明を構成する部品の文章をDB化し、利用する  
→ 特許書類作成効率1.8倍、特許書類品質1.4倍に！



## ①発明の概要

＜全体課題＞出願書類を効率的に作成できなかった  
＜全体効果＞出願書類を効率的に作成できる  
【請求項1】(1)(発明情報、説明情報に基づいて、出願文書情報を作成する)  
＜課題＞出願書類を効率的に作成できなかった  
＜効果＞出願書類を効率的に作成できる

## ④全体課題・効果

に関する情報であり、発明を特定する情報である1以上の発明特定情報を有する発明情報が記憶される発明情報記憶部と、  
まれる発明特定情報に関する説明を示す情報である説明情報が記憶される説明情報記憶部と、  
前記発明情報記憶部が記憶している発明情報、及び前記説明情報記憶部が記憶している説明情報に基づいて、特許出願の文書に関する情報であり、発明情報に関する(1以上の実施の形態を含む情報である出願文書情報を作成する作成部と、  
前記作成部が作成した出願文書情報を出力する出力部と、を備えた出願文書情報作成装置。  
【請求項2】(1)(1-出願文書情報=説明情報を用いて発明特定情報を説明する文書)

＜課題＞出願書類を効率的に作成できなかった  
＜効果＞出願書類を効率的に作成できる

前記作成部は、  
発明情報が有する発明特定情報を説明情報によって説明する情報を含む出願文書情報を作成する、請求項1記載の出願文書情報作成装置。

【請求項3】(1)(1、2-発明情報において2以上の発明がグループ化されており、出願文書情報では、一の発明のグループが一の実施の形態に含まれる)

＜課題＞複数の発明の情報を合成して、出願書類を効率的に作成できなかった  
＜効果＞複数の発明の情報を合成して、出願書類を効率的に作成できる

発明情報は、一の発明に関する情報であり、1以上の発明特定情報を有する情報である単独発明情報を2以上有する情報であり、当該2以上の単独発明情報が1以上のグループにグループ化されており、  
は、  
発明情報において一のグループに含まれる発明が同一の実施の形態に含まれるように出願文書情報を作成する、請求項1または請求項2記載の出願文書情報作成装置。

## ②実施形態番号

コメント：クレーム、実施例設計書、クレームの構成要素を単に並べた情報など(発明ごとになっていなくてもよい)

コメント：一時記憶可能

コメント：発明特定情報の一部の説明、全部の説明、関連する説明

コメント：完璧でなくてもよい。例えば、フローがなくてもよい。クレームが含まれても含まれなくてもよい

コメント：特許出願できる状態であってもよく、その手前のたたき台であってもよい。  
主に実施の形態の文書。効果や手段、課題などは、あってもなくてもよい

コメント：表示、蓄積、送信、印刷など

コメント：実施の形態の番号が示されてもよく、単に、グループに分かれているだけでもよい

## ⑤課題・効果

## ③用語説明